

令和5年度幼稚園学校評価（遙堪幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	・担任は学級経営案を作成し、その目標達成のために毎月ごとの指導計画を作成し保育を行っている。園児数の減少により、学級だけでは遊びや活動が成立しにくくなり、異年齢や全園児の活動を行うことが増えた。教職員間の共通理解のために、さらなる工夫が必要である。	2	2	・各クラスの毎月の指導計画を持ち寄り、活動の方向性を話し合う時間をとる。 ・学級としての育ちや担任の思いや願いなどを伝える工夫をする。（たより、掲示板、連絡ノート、送迎時の会話など）
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の様子から課題を捉えて保育を行っているか。	・各担任は園児一人一人の興味や関心など、生活や遊びの中での姿を記録し、園児の育ちや課題等を捉え、保育にあたった。 ・園児一人一人の読み取りが不十分なところもあり、さらに教職員の質の向上をめざす必要がある。 ・保護者アンケートの肯定的評価が100%でない。	2	2	・記録の取り方を工夫し、記録の日として時間を設けて記録する等して、振り返り、幼児理解に繋げる。 ・日常の情報交換で、子どものつづきやきや気になる姿を話題にする。「子どもを語る会」を行い幼児理解を深める。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	・家庭との連携や巡回相談、関係機関との連携を通して、園児の特性の理解や支援の在り方、保護者の思いを共有し、支援にあたっている。 ・担任と特別支援補助教諭が支援について共有する時間が十分とれていない。全教職員での組織的実践にするためには、情報共有の仕方を工夫する必要がある。	2	2	・特別な支援を必要とする幼児の理解に努め、個別の支援について指導計画に明記する。 ・特別支援保育補助教諭との連携を充実させるため、支援シートを活用し、ポイントを絞って情報交換する。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	・人権・同和教育を全ての教育活動の基底に据え、どの子どもにとっても気持ちのよい居場所となるように支持的風土のある温かい学級経営を心掛けた。 ・人権同和教育研修に参加したり、男女共同参画についての職場研修を行ったりして、人権感覚を見つめ直した。	3	3	・仲間意識を育てる、子どもと子どもをつなぐ保育のあり方を探る。（場の設定、声がけの仕方等） ・一人一人の良さを認め合う日々の生活を積み重ねるために、あのねタイムを大事にする。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	・コロナが5類になり、それぞれの行事で、人数制限なく開催できるようになった。自園の実態に合せ内容や運営を工夫しながら行った。 ・合同体育会や生活発表会では、子どもたちが主体的に楽しく活動できるように、日々の生活や遊びに基づいた活動を工夫し達成感を味わうことができるようにした。	3	3	・今後も、園児にとって得ることの多い活動となるよう、何を体験させ、何を育てるかを考え、共通理解しながら計画、実施をする。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	・5年生と「泥んこ遊び」「田植え」「稲刈り」の交流、合同避難訓練、合同体育会など行事での交流を行った。隣接している良さを活かし、音楽発表や学習発表会を見る機会もあり、小学生が行う一輪車、縄跳び、校内マラソンなども園児の刺激になった。	3	3	・遙堪小学校5年生との交流、音楽会発表、生活発表会の見学等、よかった交流活動は継続する。 ・年長児が入学までに身に着ける力を明確にし、幼小の連携を深める。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	・「連絡ノート」や送迎時の会話、個人懇談等で保護者と情報交換し、園児理解に努め指導に活かすようにした。 ・コミセンと連携し、年4回の未就園児教室を行った。内容を工夫し、幼稚園教育の様子やその良さを伝えることができた。 ・ホームページを更新し、園児の様子を写真で伝えるよう努めた。	4	4	・今年度再開した世代間ふれあい活動を継続するなど、来年度も地域の方々と連携した活動を実施する。 ・見直された愛育会活動である夏のお楽しみ会やコミセン祭りへの参加など、保護者の活動をバックアップする。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	・園内研修の充実に向け、指導員を招いての保育を行ったり、写真をもとに園児の様子を伝える試みをした。りした。 ・出雲市幼稚園教育研究会が行う他園の研究発表会や保育幼稚園課が行う研修会、人権・同和教育研修会等に職員が参加し、研修できたことは有意義であった。	3	3	・教育の質の向上に向け、園内研修を充実させ、保育内容の工夫、改善を図り、子どもを通わせなくなる幼稚園をめざす。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	・教職員一人一人のよさを活かし、連携しながら園務を遂行するために、普段のコミュニケーションを大切にしよう務めた。 ・朝礼を行い保育における情報共有を行い、協働して園務を行うようにした。	3	3	・めざす園の姿を明確にし、一年間の保育の見直しをもって取り組めるよう、日頃の会話の中でくり返し伝える。 ・勤務時間の異なる教職員にも情報が伝わるよう、情報共有の仕方を工夫する。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	・交通安全教室・避難訓練・防犯教室・不審者侵入訓練・豪雨時のメール送信訓練を実施した。 ・普段の遊びの中で、遊具使用などでヒヤリハットがあった。	3	3	・けが、病気、災害等、様々な事象に対応できるよう、危機管理マニュアルの見直しや避難訓練、対応訓練を行う。 ・ヒヤリハットをなくすため、屋外活動は遊具使用のルールを徹底し、くり返し共通理解を図る。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	・毎月月初めに「安全点検の日」を設定し、危険個所の洗い出しと速やかな修繕を行っている。 ・こまめに除草作業を行い、園児が遊びやすい園地になるよう努めた。 ・園舎の老朽化により営繕が必要な箇所があるが、なかなか修繕されないのが現状である。	4	4	・今後も、施設設備、教育環境の安全点検を行い、改善や修繕の必要な箇所は迅速に対応する。 ・施設の大掛りな改修は難しいが、安全に気持ちよく過ごせるよう、できることに精一杯取り組む。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する